

根木内歴史公園:湿地の観察会報告(2011/10/11 実施)

2011/10/19 文責/編集：相澤

参加者：相澤、市川、染谷、高橋（節）、西澤、三井、山田（洋）
出井（千葉大）、山口（千葉大）

今回は久しぶりに染谷さんが参加。千葉大からも女子が二人参加してくれ、にぎやかな観察会となりました。参加者の感想などを中心とした報告です。

◇観察会の感想より…

公園の中は、小鳥の声や虫の声、小さな蝶やアキアカネが飛び… ちょっと曇りがちな空の下、大きな樹木はまだまだ濃い緑… 手前には湿地の枯れ始めた葦やオギ、そしてあちこちに、地味で渋い色遣いの秋の草たちの味わい深い姿や今が盛りのタデ科の花たち… 大好きなヌカキビがそこここにゆらゆらしている姿は、何かほっとする空間でした。ごくごく自然のままの状態が保たれているからこそ見られるこの情景… ありがたいと感謝しながら巡りました。

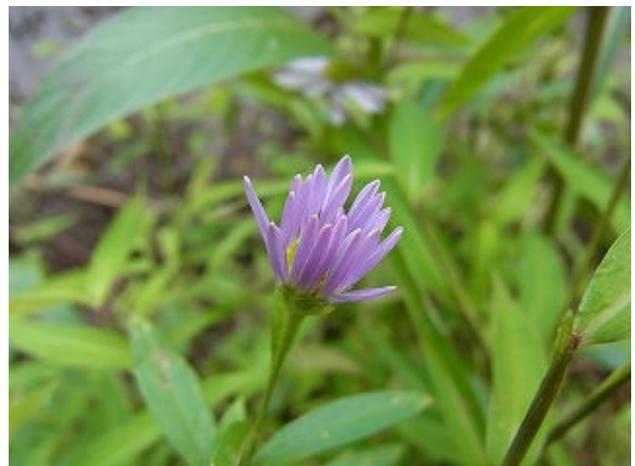
久しぶりに訪れて感じたことは…「今日は全てお気に入り…」です。湿地の植物が織りなす営み… 多種そして多様な植物や他の生き物たちが場所を競い合い、譲り合い、雑然と入り交じって生き活きと共生している姿は本当に感動ものです。どれもこれも皆個性的で素晴らしいとってしまいました。(染谷)

◇観察した動植物

カントウヨメナ

薄紫色の花びらの色に引き付けられます。この公園の湿地部分にはあちこちに生えていますが、園路沿いでは、咲いているのがなかなか見られないのですが、今日は何箇所かに見られました。見てあげてください。(市川)

上品な紫の、ゆかしさを感じさせる馴染み深い野の花。素朴で優しさを備えた楚々とした清らかな… 理想の女性を思い描いてしまいます。(染谷)



アシボソ

スマートな体で群れてます。誰かが「うらやましい」とつぶやきました。出始め（なんとなく頼りなさそう）盛り（穂もでそろってしっかり主張）終わり（風に未来をたくしました）今日はこの3様を観察できました。(西澤)

タデ科の花たち

湿地の一角を覆うように沢山咲いているミゾソバ、今年は大分増えてきた真っ白いサクラタデ、しなやかに垂れる花序のボントクタデ、公園のあちこちに顔を出すイヌタデ、あまり姿を見かけないオオイヌタデ…。どれも小さな一つ一つの花を見ると皆よく似ていて可愛らしいです。(染谷)

ミゾソバ

ミゾソバの群生、かわいいピンク色に染まっていた。中には白花もありました。(山田)

風にゆれる花々の色の美しさに見とれました。(三井)

ピンクの愛らしい花、牛の顔を連想させる葉をつけて今年も楽しませてくれています。田んぼの畦道では数が少ないので見過ごしてしまいましたが、一面にあるとみごとですね。ソバとつくど食べるソバをつい考えてしまうけれど食られないのがちょっと残念、これは私だけ？(高橋)

夏の葉だけのときから好きな子です。特徴的な形をしているので、すぐに覚えられました。秋になってころころしたお花を見たときはさらに好きになりました。相澤さんが『こんぺいとう花』って別名つけたのがよくわかります。キュートな秋を演出してくれる一人ですね。(出井)

シロバナサクラタデ

何度見ても清楚で可憐な白花に魅入られてしまいます。サクラタデとの違いについて高橋さんと暫時検証したけれど確定には至らず。(三井)



↓ミゾソバ



↓シロバナサクラタデ



↓オオイヌタデ



ヒメサルダヒコ

節々に小さな白い花をつけていました。名前にひかれて観察しました。(山田)

変わった名前の種類で観察会では人気がありますが、コシロネという湿地性植物の母種であるとか…母種っていったい何なのでしょうねえ？なんて私が言っているはいけませんね。(相澤)

モズ

モズが盛んに高鳴きをしてましたが、今年も公園に来てくれたようです。昨シーズンは、オスとメスが一羽ずつ見られました。うまく縄張りを作ったようでした。今年もそうなってくれると、うれしいです。(市川)



コブナグサ

逆さほうきのような様子で風にゆれていきます。地味な草だけれど、秋には存在感あり。(西澤)

ヌカキビ

秋のやさしい風にゆれて、優雅な風情。根木内でこれを見ると「秋がきた」って思います。(西澤)

この危うい感じがたまらない、というファンの多い秋の草です。根木内でもそこいら一面にあります。写真がうまく撮れないと、いつも困ってしまうのですが…(相澤)



ウシガエル

湿地部分の水たまりでぴよこぴよこじゃぶじゃぶと逃げるものたち。良く観察してみると、大人になりたてのウシガエル達でした。この顔、悪どいとするか、可愛いとするか、どちらでしょうか？(相澤)



ウシハコベ

初めてであったウシハコベのお花。一目ぼれでした。‘ウシ’ とつくとなんだか男らしいイメージですが、小さくシンプルで、ただただ可愛らしい姿でした。その小ささゆえ、見逃されてしまいそうですが、そんなのもったいない！と思います。

(出井)

ヨモギの虫こぶ

虫の中には、植物の体内に入り込んで自分が住まう部屋を作らせるものがあります。植物が虫の命令に従って作ったものが「虫こぶ」です。

あぜ道に生えていたヨモギに「虫こぶ」がついていました。白くてふわふわした可愛らしいこぶです。このこぶの中にはハエの幼虫が入っていて、こぶの内部を食べて成虫になります。このこぶの「ふわふわ」はヨモギの葉裏の白い毛が由来です。虫の命令でこぶの周りにこの毛をたくさん作らされているようです。ヨモギは虫の言いなりになっていて、ちょっと不憫…。

同じヨモギでも、入っている虫が違えば違う形の虫こぶができます。根木内で見つけたこぶはヨモギの葉裏にできた丸いこぶでしたが、別の場所で見つけたヨモギには他の種類のハエが入っており、葉の表に三角錐のこぶを作っていました。

同じ建築資材（植物）から、虫たちそれぞれが都合の良い形の家（虫こぶ）を作るのが面白いと思いました。（山口）

ヨモギの茎や葉に出来た虫こぶ... 初めて見ました。千葉大の学生さんに教えていただきました。

（中略）虫こぶには「タンニン」が含まれていて、染料や医薬品、食物として使われるとネットで調べましたら書かれていましたが、具体的にどんな風に?... 知りたいと思いました。（染谷）



↑ 根木内のヨモギの虫こぶ



↑ 長野県霧が峰で見たヨモギの虫こぶ

根木内歴史公園の湿地の観察会は毎月第2火曜日に行っています（雨天時は次の日に延期）。11月は8日（火）の予定です。野草の種子や、飛来しだした冬鳥の観察を行きましょう。

9:30に公園駐車場に集合で、昼まで観察を行い公園内で昼食を食べます。

お問い合わせ（千葉大・相澤）

E-mail : akihitoaizawa@gmail.com